

平成23年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

平成24年10月

はじめに

下呂市では、下呂市第一次総合計画の教育分野において、豊かな市民社会を実現するため、「人が育ち・行動する“まち”をめざして」の基本方針のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成20年4月1日施行）され、各教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

下呂市教育委員会では毎年、「学校教育」、「社会教育」の各分野における方針と重点を定め、各種施策に取り組んできました。

これらの各項目についての内部評価を行い、外部からは、各課が所管する諸団体のご意見を頂き、これを外部評価とさせていただきました。

平成24年10月

下呂市教育委員会

「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

(1) 下呂市小・中学校教育指導の方針と重点についての内部評価

(方 針)

- ◇ 児童生徒の個性を生かし、一人一人に「生きる力」をはぐくむ教育を推進する
- ◇ 学校の教育目標の具現に徹し、地域に信頼される学校経営を推進する

《魅力ある学校づくりのための設定指標》

- ◇ 「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を82%以上にする
 - ◇ 「授業の内容が分かり易いと答える児童生徒の割合」を82%以上にする
- ※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援を充実させる。

【指標】 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
目 標	75.0	76.0	77.0	78.0	80.0	82.0	82.0
実 績	91.0	90.8	92.4	92.2	94.0	93.8	93.7

【指標】 授業の内容が「分かり易い」と答える児童生徒の割合

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
目 標	75.0	76.0	77.0	78.0	80.0	82.0	82.0
実 績	90.0	88.9	90.4	91.7	92.6	93.7	94.1

(総 評)

各学校においては、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、家庭・地域と一体となって学校経営に取り組んだ。管理職の指導のもと、児童生徒の個性を生かし、「確かな学力」、「豊かな心」、「健康な体」を育む、調和のとれた教育の充実を図れるよう、学校を支援した。

- ・市教委との連携による学校実践の支援
- ・市教委訪問における指導助言
- ・財政支援

上記の指標実績のとおり、9割以上の児童生徒が学校生活に満足感、授業への充実感を得ているととらえる。不登校児童生徒の状況も、年々減少傾向にあり出現率は県や全国の約半分と対策の成果が着実に結実している。この数値からも、各学校においては、豊かな学校教育活動が展開されているものととらえている。

【不登校児童生徒数】(病気以外の理由で30日以上欠席した児童生徒数)

16年度：小8人 中12人<計20人> 17年度：小7人 中16人<計23人> 18年度：小2人 中18人<計20人>
 19年度：小3人 中23人<計26人> 20年度：小2人 中27人<計29人> 21年度：小3人 中16人<計19人>
 22年度：小2人 中11人<計13人> 23年度：小1人 中13人<計14人>

【1000人あたりの不登校児童生徒数】

21年度:全国(小3.2人 中27.7人) 岐阜県(小4.2人 中29.7人) 下呂市(小1.5人 中14.5人)
 22年度:全国(小3.2人 中27.4人) 岐阜県(小4.2人 中29.7人) 下呂市(小1.1人 中10.3人)
 23年度:全国(小3.3人 中26.4人) 岐阜県(小4.1人 中26.6人) 下呂市(小0.6人 中12.2人)

今後は、「学校が楽しい」「授業の内容が分かり易い」と答えていない、ほぼ1割の児童生徒に焦点をあてたきめ細やかな指導による児童生徒の学力向上を図ること。平成22・23年度と文部科学省指定の不登校未然防止に取り組んだ萩原南中学校・萩原小学校の研究の成果を下呂市内に広げることを通して、市内全小中学校が「学校へ来るのが楽しい」といえる魅力ある学校づくり（不登校や問題行動に対する未然防止）を進めること。「危機管理対応マニュアル」等を整備し、安全・安心な学校づくりを進めること。特別支援教育の校内体制を一層充実させ、自立し社会参加できる力を身につけさせる支援を進めること。等が大切であるとする。

◇「確かな学力」の定着を図る指導の充実

○教科指導においては、児童生徒の発達の段階や一人一人の学力、学習状況を把握し、「できた」「わかった」という充実感を感じられる指導方法や評価を工夫した。特に、授業の終末において自らの高まりを実感できる評価を工夫することと、算数・数学、英語を中心に少人数指導の充実を図り、個の学習状況に応じたきめ細かな指導を行った。

- ・ 県の加配等で少人数指導を実施し、一人一人に応じた指導を行っている。また、教務主任や教頭、県費非常勤加配教員等が授業に入り、一人一人に応じたきめ細かな指導を行っている。

少人数指導実施校：萩原小、下呂小、竹原小、萩原南中、竹原中、下呂中、金山中

少人数加配：10人 県費少人数非常勤講師5名

- ・ 複式学級における教科担任や中学校の免許外指導解消のため、県費非常勤講師を配置し授業の充実に努めている。（小学校教科担任4名、中学校免許外指導解消4名）
- ・ 授業の終末において、評価問題や補充問題を活用し、確かな学力の定着に努めている。
- ・ パソコンや具体物を活用した授業、終末から指導過程を工夫する授業等を交流し、授業研究に努めている。
- ・ 下呂市嘱託研究委員会では、授業の中での指導のポイントや具体的な手立てを示した「確かな学力をつけるための授業をめざして」リーフレットを作成し、市内の全教員に配布した。
- ・ 全国学力・学習状況調査（小6、中3）をもとに、各校において指導の成果と課題を確認している。

○発達段階に応じた「聞く・話す・書く・読む」を中心とした学習の基本的な学び方づくりに力を入れ、学ぶ意欲の高い学習集団の育成に努めた。

- ・ 市内全小中学校が学習の基本的な学び方づくりに取り組み、基本的な学習姿勢が定着している。5つの地域毎に小中学校が連携をして、発達に応じた「話し方、聞き方等」の学び方の段階を明確にし、学習姿勢の定着を図っている。小中学校が連携をして取り組んでいることで、小学校卒業時や中学校卒業時の児童生徒の姿が明確になり、義務教育9年間を見通した学習習慣づくりが行われている。

○平成23年度には小学校が新学習指導要領となり、平成24年度には中学校が新学習指導要領の完全実施を迎える。そのため、改訂の趣旨を踏まえた教育計画の編成や指導方法の改善を図った。

- ・教育課程研究会や様々な研究会を通して、新しい指導要領の趣旨や改善点等について確認し、各学校で研究会を設け全職員に伝達をおこなった。
- ・指導書や教材を新規購入し、学習指導の充実を図った。

○進路指導においては、計画的な体験活動を位置づけ、望ましい勤労観や職業観が身につくよう指導を工夫した。特に、中学校の職場体験学習では、一人一事業所において体験することにより、自己の能力・適性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択できるよう指導・援助した。

- ・全中学校において、職場体験学習を実施した。それぞれの学校では、極力一人一事業所を目標として、望ましい勤労観や職業観が身につくよう地域の事業所の協力をいただきながら、体験活動を行っている。

○特別支援教育においては、全教職員が一人一人の児童生徒の教育的ニーズを正しく理解し、校内委員会の充実を図り、全校体制で指導するように努めた。また、学業支援員（特別支援教育）の配置により、特別な援助を要する児童生徒への教員の指導に対して支援を図った。また、一人一人の指導の方向性を示し、卒業時に付けたい力や卒業後の進路を見通した「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の充実に努めた。

- ・学校においては、特に保護者と担任とが意思疎通を明確にし、児童生徒の実態に応じて学習支援や生活支援が可能なように努力している。関係機関と連携したり客観テストを活用したりして理解度等に応じた指導を、学校をあげて行っている。
- ・市内小中学校に4校6学級の通級指導教室（言語障がい、LD/ADHD等）を開設し、児童生徒の困り感に応じた、個別の指導を行っている。
- ・学業支援員（特別支援教育）を配置し集団の中で個別の指導を必要とする児童生徒に対応をしている。
（学業支援員 22名配置）

◇ 豊かな心と健康な体の育成

○道徳教育においては、心に響く道徳の時間の一層の充実を図るとともに、地域や学校の特色を生かした豊かな体験活動を通して、児童生徒の道徳性を高めるよう努めた。

- ・週35時間の道徳の時間を学級経営や学校行事と関連付けながら計画的に実施している。
- ・飛騨教育事務所の道徳教育計画訪問を機会に、中学校区で学校間の授業公開を行い、道徳の時間の充実に努めた。
（平成23年度道徳教育計画訪問実施校：宮田小、小坂小、下呂小、下呂中、金山小、馬瀬中）
- ・各教科と道徳の授業の関連を明確にした道徳教育の全体計画別葉の作成を行った。
- ・道徳の時間の指導を通じて学んだ道徳性を地域や学校における実践（体験活動）で確かな実践力とするよう努力している。

○特別活動においては、諸問題を解決する活動を通して、児童生徒による自発的、自治的な活動を展開し、集団の一員としての自覚を深めることにより、一人一人に存在感があり、心が通い合う学級づくりに努めた。

- ・学級を集団生活の母体とし、学校生活の向上や望ましい集団生活を築くために、学級活動の充実を図った。また、児童会・生徒会活動によるあいさつ運動など自治的活動を展開し、学校生活の向上をめざした。
- ・「学校に来るのが楽しい」という居心地がよくどの子も所属感を感じる集団づくりに努めた。このことが、不登校やいじめの未然防止につながると考える。

○健康教育においては、児童生徒の健康状況を的確に把握するように努め、自主的に健康管理できる能力や態度が育つよう、指導の工夫改善を図った。平成21年度に文部科学省指定を受けた小坂地域における食育推進事業においては、栄養教諭を中核として、学校・家庭・地域が連携した食育の充実について研究を深め、その成果を下呂市の各小中学校に広めている。

- ・各学校においては、毎朝、児童生徒に健康観察を実施している。教師の指導の下、児童生徒が互いに健康観察をし合う方式で行っている。また、保護者との連携を密にし、児童生徒の的確な健康状態の把握に努めている。
- ・安全や危機管理意識の向上を目指し、学級活動・全校集会・避難訓練や交通安全教室などの学校行事を通して具体的な指導を行った。

○いじめ、不登校、その他の問題行動に対する対応

下呂市教育委員会は、次のような基本姿勢をもって指導助言にあたっている。

※「**子どもは間違い(失敗)を犯しながら成長していく存在である。**」(基本理念)

※「問題があることが問題ではなく、どう対応(関わる)するかが問題である。」

※存在感、自己有能感、自己有用感、→ 自己肯定感を高めることを大切にする。

※「見えている事象(サイン)が見えない者は、見づらいいじめ等の事象をキャッチすることはむずかしい。」

日々の全ての教育活動で『気にかける(まなざし、声かけ、ふれあい)指導』を大切にする！

※保護者、地域との理解と協力 (情報共有)

管理職のリーダーシップのもと、教職員が上記基本姿勢を大切に信頼と愛情に基づく適切な対応ができるよう、生徒指導主事・教育相談主任等を中心とした組織的な生徒指導・教育相談の充実を図った。特に、いじめ、不登校、問題行動対応については、全職員が共通理解のもとに組織的に対応し、未然防止・早期指導の徹底に努めた。また、教育相談員の配置により、不登校・不登校傾向の児童生徒への個別的な支援に努めた。

萩原中学校区において2年間(H22～H23)文部科学省の指定を受け研究を進めてきた不登校未然防止のための「魅力ある学校づくり」の成果は、市内各校に広まりつつある。また、平成24年度文部科学省の指定を受けている下呂小学校、下呂中学校の人権教育の取り組みを今後広めていきたい。

【いじめの実態】

- ・いじめの未然防止→お互いを思いやり、仲間を大切にする指導の充実といじめは人として絶対許されないという意識の高揚を図っている。（仲間と力を合わせやり遂げる活動の重視等）
- ・心理検査や生活アンケート、精神健康度調査等を実施し早期発見・早期対応に努めている。
- ・教育委員会は、各学校より随時、また毎月事案の報告を受け、早期対応の指導助言に努めている。
- ・スクール相談員、スクールカウンセラー等の専門家との連携により心のケアに努めている。

【下呂市小中学校のいじめの認知件数】 22年度：15件 23年度：24件

【22年度1000人あたりの認知件数】 全国：5.5人 岐阜県：15.2人 下呂市：5.1人

【23年度1000人あたりの認知件数】 全国：5.0人 岐阜県：12.2人 下呂市：8.3人

岐阜県、下呂市ともいじめの認知件数が全国を上回っているが、視点を変えると、この数値は下呂市の各小中学校が危機意識をもち、敏感にいじめを感知し、「これくらいは・・・」で片付けず教育委員会とも連携をとりながら早期対応に努めているからこそその値だと分析している。

【不登校の実態】

- ・各小中学校においては、「新たな不登校を生み出さない」として一人一人が集団の中でよさや弱さを認め合い、安心して生活できる居心地のよい学校づくりに努めている。その成果もあり、市内の不登校児童生徒（病気以外で年間30日以上欠席）は、非常に少ない。
（20年度＝29人、21年度＝19人、22年度＝13人、23年度＝14人、）
- ・学業支援員（不登校対策・教育相談）を、小中合わせて8名配置（事務局に1人）している。
（再掲）

【下呂市小中学校の不登校児童生徒数】 22年度：小2人、中11人、計13人
23年度：小1人、中13人、計14人

【22年度1000人あたりの不登校児童生徒数】

全国：小3.2人、中27.4人 岐阜県：小4.2人、中29.7人 下呂市：小1.1人、中10.3人

【23年度1000人あたりの不登校児童生徒数】

全国：小3.3人 中26.4人 岐阜県：小4.1人 中26.6人 下呂市：小0.6人、中12.2人

◇ 特色ある教育活動の推進

- 小中学校にALT6名を配置し、ALTとの連携による英語学習や平成23年度より導入された小学校5・6年生における外国語活動において、外国語への関心・意欲やコミュニケーション能力の向上を図った。また、小学校では、1～4年生においてもALTを活用して英語のコミュニケーション活動を実施している。
- コンピュータの積極的な活用を推進し、情報を主体的に選択・活用できる能力を養うとともに、情報モラルの向上に努めた。

- ・各学校において情報教育の年間計画に沿って児童生徒への指導に取り組んでいる。また、「メールによる被害」についてなどは児童生徒のみならず保護者に対しても啓発活動を行っている。

○図書整理員の配置により日常的な図書館利用を推進し、読書に親しむ機会を増やすとともに、読書や読み聞かせ等の活動を積極的に行った。

- ・平成23年度は5名の図書整理員を配置した。
- ・ボランティアによる読み聞かせ活動が各学校において活発に行われている。

○森林教室等、環境保全について主体的に考える体験的な活動を支援し、環境問題の意識化を図った。

- ・小学校では、外部の講師を招き森林教室を行った。また、位山自然の家において宿泊し、森林体験学習を行い、森林の保全や自然を大切にすることを育てる学習を行った。

森林教室 小学校13校が実施 位山自然の家での体験学習 小学校14校が実施

◇ 地域に信頼される学校づくり

○管理職は、その指導性を発揮し、自己啓発面談等を通して全職員の目的意識を高めるとともに、学校や地域の特色を生かした創意ある教育活動の推進に努めた。

- ・現在、各学校は年間3回程度の校長と職員の面談機会をもち、教科指導や生活指導における諸問題や個々の対処について、具体的な目標や指導の手立てを明らかにし指導をしている。
- ・各学校とも、児童・保護者や地域の方からのアンケート等（学校評価）に基づいて、教育指導や教育実践について改善を図っている。地域の特色を生かした教育の実践に向けて、学校行事や学年行事を設定している。
- ・稲作づくり、なわなない作業、桜等見学、山登り、宿泊体験、名所見学 等

○下呂市教育研究所による研修事業を工夫し、教職員の指導力を高める支援を図った。

- ・教科指導関係、情報教育関係、法令関係、特別支援教育関係など教職員のニーズを考慮し、例年数講座を設定して、研修を深めている。

平成23年度 夏季の実践講座 8講座開設 355名参加

平成23年度 秋・冬季の実践講座 5講座開設 64名参加

○児童生徒の安全を第一に考え、危機管理マニュアルや気象警報等発表時の対応について見直しを行った。

- ・地域と連携した避難訓練（下呂市防災訓練への参加）を計画した。
- ・災害時に備え、児童生徒の保護者への引き渡し訓練を行った。
- ・気象警報発表時の対応について再検討した。「早い段階で判断する」「児童生徒のみでは下校させない」「定期的に引き渡し等の訓練を実施する」を基本とし、児童生徒の安全を第一に考えた対応がとれるようにした。

○下呂市スクールサポーター事業の継続・強化を図り、学校内外における不審者等に対する児童生徒の安全確保に努め、危機管理体制の充実を図った。

- ・警察出身のスクールガードリーダー２名をお願いし、支部ごとに校長会代表者に年間２回ほど集まっていただき、情報交換やリーダーからの助言を受け、各学校へ伝達して児童生徒の安全に寄与している。
- ・各支部では、警察官やスクールガードリーダーの講演などを計画し、スクールサポーターの活動を推進している。
- ・スクールサポーターを募集し、児童生徒の登下校等に関する見守り活動をお願いしている。

○下呂市教育研究所ホームページの充実を図り、各学校の教育方針や活動について情報発信するとともに、自己評価や学校関係者評価（外部評価）等を学校経営の改善に生かし、開かれた学校づくりを推進した。

- ・下呂市教育研究所ホームページには、各学校の活動について学校だよりや写真を掲載して情報発信を継続して行ってきた。情報内容も年々充実し、年間のアクセスは、約１０万件に達した。
- ・各学校では、児童生徒、教職員、保護者、学校評議員等へのアンケート調査により教育活動について定期的に評価し、成果・課題を明確にして学校経営に生かしている。また、評価結果については、保護者や地域に公開し、開かれた学校経営を進めている。

○育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

- ・２３年度 小学生９８名、中学生９１名（要保護１名）

（２）教育環境の整備と充実

- ① 竹原小学校の耐震補強工事を実施した。
- ② 竹原小学校屋内運動場の改築に向けた各調査、実施設計を委託した。
- ③ 萩原小学校屋内運動場の改築に向けた各調査、実施設計を委託した。
- ④ 菅田小学校校舎耐震補強工事(第Ⅰ期)を実施した。
- ⑤ 下原小学校校舎耐震補強に向けた実施設計を委託した。
- ⑥ 東第一小学校校舎・屋内運動場耐震補強に向けた実施設計を委託した。
- ⑦ 尾崎小学校屋内運動場耐震補強に向けた実施設計を委託した。
- ⑧ 下呂中学校西校舎耐震補強及びエコ改修事業に向けた実施設計を委託した。
- ⑨ 竹原中学校校舎耐震補強に向けた実施設計を委託した。
- ⑩ 国の交付金事業により校舎等の屋根防水工事を実施した。

(3) 【各学校における学校関係者評価委員会の意見（平成23年度抜粋）】

- 学校のキーワード・方針が明確で、とても分かり易い。
- 子どもたちが明るく、あいさつもとてもよくできている。大人の側からも挨拶を仕掛けていくことが大事である。家庭での挨拶習慣のしつけも大事である。
- 子どもが元気で毎日学校へ楽しく行っていることが何よりうれしい。
- 話す人の方を向いて聞くことが、ほとんどの子ができている。
- 授業づくりを子どもたちが引っ張り、よりよい授業をつくっていかうとしている。それに学級の仲間が応え、協力し合ってよい学習ができている。
- 意見を自由に発言し合って、だれもが発表しやすい学習の雰囲気ができている。
- 個々の理解度をしっかり把握して授業を進めてほしい。わからないところをその子に合った方法でわかる授業をお願いしたい。
- 教室経営が素晴らしく、学校が楽しいということがよくわかる。
- 子どもにとって、分かり易い授業が進められている。先生方の授業の進め方がよい。
- 授業などを見せていただいて、よくまとまっている。一つのものに向かっていく姿はできている。もう少し、自信をもって大きな声で発表できるとよい。
- 子どもたちに話す力がついている。人前で思いや考えが言えるようになっている。
- 道徳の授業を見せてもらったが、授業をする先生の姿がとても良い。人間がよいという印象を受けた。子どもたちも落ち着いた環境の中で学んでいる。
- 校区を知る授業を多く取り入れ、郷土愛を高めてほしい。
- 学力が伸びていることを聞いてとてもうれしく思う。学力を伸ばすのは学校の責任である。また、少人数のよさを生かして、授業中も学習のルールを守ってリラックスした中で、学びを深めていく授業を展開してほしい。
- 学力検査等で年々力がついてきているようだが、平均得点で若干全国平均を下回る学年もある。特に算数においては、その学年の内容をきちんと指導して、次学年に送ってほしい。
- 生き生きと学習に取り組む姿が素晴らしい。
- 特別支援学級、通級指導教室では、施設設備も充実しており、とてもきめ細かい指導がなされている。
- 特別支援学級のお子さんが大切にされていると感じる。自然にかかわっていて素敵な姿である。
- 生徒一人一人の個性をとらえて、支援されている。それによって、成長を成し遂げていること（自信、責任感、達成感）を実感している。
- 仲間のために動くことの大切さを伝えていただいている。
- 縦のつながりや交流の成果が出ている。上級生を見習い下級生が伸びる。上級生にもいい加減なことはしてられないという緊張感がある。
- 集団でやることには成果は出ている。一人一人を高めていくことが今後の課題である。
- 仲のよい子と遊んだり、授業中にもわからないことを教えてもらったりと、よい仲間づくりができている。
- 子どもは誰もがよいところをもっている。それを見つけて伸ばしてやれるのが学校である。自信を持たせてもらいたい。
- 不登校が減ってきたということは、学校の中で自分の居場所が位置づけられたり、自己決定の場があったりするということだと思う。安心して学び、活動できる学校づくりを進めてほしい。

【各学校における学校関係者評価委員会の意見（平成23年度抜粋）】

- 送る会など子どもが主体になって会を進めていることが素晴らしい。内容もアイデアが豊富でとても工夫されている。
- 学校が、地域とのふれあいを大切にして、「交流会」を行ってくれた。ぜひ続けてほしい。
- たくさんの児童が祭や舞に参加している。学校でも、祭りに対する理解や更なる協力をお願いしたい。
- スクールサポーターとして子どもと一緒に登下校している。男女仲良く元気に話しながら登下校している。そういう姿を見ると、いじめはないだろうと思われる。
- 防災マニュアルについては、地域との連携を図ったマニュアルを作ることが大切である。一斉下校の時、各地域のポイントに地域住民に立ってもらうようなことも考えていくとよい。
- 部活動では、努力する姿勢、人間関係を学ぶ機会となった。困難にあっても乗り越えるための対処法、自分や仲間で解決しようとする方法が学べた。
- 子どもたちの自転車の乗り方についてはとても危険なこともある。危険を予想した行動や自分の安全について考えられるようになるとうい。
- 悩み事が相談しやすい学校でありがたい。いつも親身になっていただける。
- 先生方は子どもの可能性を見つけて、子どもと話しながら前に進ませてくれるのでありがたい。
- 欠席の連絡をしたときに、受けてくださった先生の対応がとても優しく、思いやり、温かい気持ち伝わってくるようだった。
- 学校を信頼している。これからもいろいろ相談させていただきたい。学校と家庭の連携が本当に大切だと感じている。

平成 23 年度「社会教育の方針と重点」についての点検・評価

(方 針)

- ◇『豊かな市民生活をめざす社会教育の推進』を目標として、その具現化のため、以下の4つの重点を柱として事業を推進した。

(重 点)

- ◇ 地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育 む】
- ◇ 市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】
- ◇ 市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】
- ◇ だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】

(総 評)

社会教育は、学校教育の教育課程として行われる教育活動を除く、青少年・成人に対する生涯学習活動を積極的に支援する責務があります。社会教育課が所管する事業、施設は広範囲におよぶため、それらを有効に活用して市民のそれぞれのライフステージにおける役割を明確にして、事業の実施にあたらなければなりません。課員はこのことを自覚し、以下に述べるそれぞれの事業を的確に実施しました。

◇地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育 む】

①家庭教育機能の充実

- ・妊娠期からの親としての学習機会の充実を図るため、子育て講演会、乳幼児期・幼児期・小中学校保護者対象の親まなび講座、命のふれあい講座、を開催すると共に、家庭教育支援チームによる子育て支援を行った。

(親まなび講座)

- ・乳幼児・幼児の家庭教育として、小坂・萩原・下呂・金山地域で親まなび講座を実施。子育て世代どなたも参加できる環境で実施した。

(子育て講演会等の開催)

- ・子育て支援講演会は、毎年、家庭での子育ての不安や悩みを解消することにつながるような講演会を行っている。今年度は、夜回り先生による子育て講演として、子供の育成への関わり方などをご講義いただいた。今後も「聞いてみたい」と思える講演会のための講師選択や、開催時間・開催場所等について工夫を重ねていきたい。

(家庭教育支援総合整備事業)

- ・児童少年期の家庭教育については、募集型ではなかなか参加者が集まらない実状から、保護者の集まる小中学校単位による講座実施に転換し、支援事業として新たに取り組む。
- ・命のふれあい講座事業
市内全中学3年生を対象に、自他の生命の大切さや親や家族のあり方や役割について学び、近い将来親になるであろう中学生に対し「家庭教育」の重要性に早期から認識させることを目的に「命のふれあい講座」を実施した。
- ・家庭教育支援チーム事業
小坂地域4人、金山地域4人、計8人で支援チームを結成。子育て中の親や保護者の子育て不安の軽減や孤立を

防ぐように、両地域の子育て経験者や専門家との連携により、きめ細かな相談体制の確立のため実施した。金山地域では、3-4ヶ月、8-9ヶ月健診の際、保護者同士または保護者と支援チームの語り合いの場をつくるために赤ちゃんカフェ・カナヤマンカフェを実施した。

市内の他地域では、保護者同士または保護者と支援チームを交えての語り合いの場をつくるために、UP カフェを年8回実施した。

広報活動として、金山地域はカナヤマン、小坂地域は小太郎だよりという情報誌を作成発行。小中学校・保育園を通して保護者に配布を行った。その他、両地域児童館の行事等で各種団体間の連携を図った。

(企業内家庭教育研修)

- ・飛騨教育事務所と協力して、市内の一般企業にて家庭教育研修を受けることが出来る事業を展開。親まなび講座などへの研修に出席できない家庭も多いことから、企業へ講師を派遣し教育支援を行った。

23年度は3地域3社の協力を得ることができた。今後も幅広く周知を行い多くの企業が参加できるような体制作りを行いたい。

② 地域活動の促進と地域社会における教育力の向上

(青少年教育)

- ・下呂市青少年育成市民会議を開催し、大会決議の採択、少年の主張の発表、青少年育成顕彰（わかあゆ賞）表彰式を行ったほか、英語スピーチコンテストを実施し、青少年の奉仕・体験活動・地域行事等への参加の機会づくりの充実を図った。

(青少年健全育成)

- ・ジュニアリーダーや指導者、学校教員など地域の関係諸団体と連携・協力して、各地域でのキャンプ体験活動、市内小中学生が野外活動のもとで学年が違う仲間たちと共同生活や未体験活動を行う中での忍耐力や自立心・協調性などの心の豊かさを身につけることを目的とした下呂市交流キャンプ（雨天のため中止）、親子わくわく科学体験教室（夏季の部・冬季の部）、天体観測を実施した。
- ・各地域において成人式を開催し、地域で青少年を見守り、健全に育てていこうとする気運を高めた。新成人数330人が出席しました。
- ・下呂市中学生国際交流事業としてアメリカ合衆国姉妹都市2市への中学生派遣を実施。また、相手側からの訪問団受入れ等の相互交流及び同地域からの国際交流員2名の雇用を継続し、青少年の国際感覚の醸成を図った。

<平成23年度 事業1回目>

○第24回ケチカン市派遣事業

派遣先：アメリカ合衆国アラスカ州ケチカン市

派遣人員：中学年生15名（H23年中学3年生） 引率者3名

派遣時期：平成23年4月26日（火）～5月9日（月）

○第18回ペンサコーラ派遣事業

派遣先：アメリカ合衆国フロリダ州ペンサコーラ市

派遣人員：中学生20名（H23年中学3年生） 引率者3名

派遣時期：平成23年4月27日（火）～5月6日（金）

<平成23年度 事業2回目>

○第25回ケチカン市派遣事業

派遣先：アメリカ合衆国アラスカ州ケチカン市

派遣人員：中学年生12名（H24年中学3年生） 引率者3名

派遣時期：平成24年3月27日（火）～4月9日（月）

○第19回ペンサコーラ派遣事業

派遣先：アメリカ合衆国フロリダ州ペンサコーラ市

派遣人員：中学生20名（H24年中学3年生） 引率者3名

派遣時期：平成24年3月28日（水）～4月6日（金）

- ・岐阜県青少年健全育成条例に基づき、市内の書店、コンビニエンスストア、カラオケ店、金物店を月に一度巡回して立入調査を行い、青少年の健全育成のため有害図書や深夜の入店、刃物の販売について状況を調べ、指導等を行った。

◇市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】

① 文化・芸術活動の振興

- ・文化協会活動補助事業により文化・芸術関係団体の自主的な運営を促進し、平成24年度に初めて下呂市文化祭展示の部を開催するよう準備を行った。無形文化財及び無形民俗文化財の現地公開事業などにより第11回岐阜県獅子芝居公演への参加や第19回飛騨・美濃歌舞伎大会への参加など、市民に優れた文化・芸術にふれる機会の提供や、発表の機会づくりなどの支援を行なった。

② 指定文化財の保存

- ・指定文化財（国、県、市指定文化財、合計503件：24年3月31日現在）を適切に保護し、その伝承と、活用を図るために事業を実施した。また、平成16年4月に発生した小坂郷土館円空仏盗難事件を教訓に、文化財所有者及び所蔵先向けに広報紙を通じて文化財の保管管理の徹底を周知した。
「重要無形民俗文化財」について現地公開に4件、維持管理に2件、「国指定文化財」の保存修理に1件、管理に1件「市指定文化財」の保存修理・維持に関し4件の補助を行った。
- ・植林した幼樹を、特別天然記念物カモシカの食害から守るため、幼樹に忌避剤を塗布するという食害対策事業を継続した。

③ 埋蔵文化財の調査と保護

1) 発掘調査等

平成23年度は、開発工事等に先立つ立会調査が4件、試掘調査2件を実施した。開発工事等区域はいずれも、本発掘調査を必要とする区域ではなく、文化財保護法が適用されるものではない旨を事業者へ通知した。

2) 記録保存のための発掘調査報告書作成作業

個人住宅建設（下呂市小川）に先立ち、平成22年度に本発掘調査を行い記録保存を実施した大林遺跡については、現在、発掘調査報告書作成のための出土品整理作業を実施している。平成22年度には、出土遺物の洗浄・注記・接合作業を行い、コンテナへの収納・保管を完了した。平成23年度は、出土遺物の中から重要と思われる石器資料について、実測及び写真撮影を委託し実施した。平成25年度に発掘調査報告書の原稿執筆を行い、平成26年度に発掘調査報告書刊行の予定である。

④ 博物館における歴史資料の保管体制の充実と、その公開を図る。

1) 全体的な事業の方向性（H22との共通点と相違点）

ア. 平成22年度から継続した要素

- ・平成23年4月から下呂ふるさと歴史記念館を市内7館の事業中心館と位置づけ、地域社会との連携、学校教育との連携をより強化する。同館では、館収蔵資料の整理・収蔵等の基本的作業をはじめ、設備の改善、市民・観光客向け提供サービスの拡充、そして専属職員を配置するといった機能強化のための施策を

行う。その点については、引き続き内容の充実を目指し、事業を展開する。

イ. 平成 23 年度の新要素

- ・教育委員会から「下呂市博物館等の望ましい運営のあり方について」と題して、社会教育委員に諮問を行い、平成 24 年 3 月に「提言書」を頂く。市民目線から、広報・事業連携・市民との協働・博物館機能の向上・観覧料の是正が提言され、今後の事業方針において踏まえる事項とした。

2) 下呂ふるさと歴史記念館の事業

事業は、大きく「展示事業」、「体験事業」、「普及事業」、「収蔵品整理事業」に分かれる。以下にまとめる。

ア. 展示事業

- ・平成 24 年 3 月 20 日、常設展示室第一展示室～第三展示室までを完全にリニューアル。これまで、互いに脈絡のない方法で展示がなされていた点を改め、学校教育・生涯教育・観光のいずれの立場からでも観覧のしやすい時代別展示に改めた。また、新展示には、「単なる過去の歴史」だけではなく、現在の生活としても身近なテーマも設けた。地場産業として盛んな林業の歴史や、固定資産税の始まり、そして下呂市の合併をきっかけとした行政区域の歴史についても理解できるよう配慮した。また、各展示が深く理解できるよう、展示解説シートをこれまでに 3 テーマ発行し、順次、拡充する予定。
- ・企画展や特別展示は以下の通り実施した。
 - ①平成 23 年 3 月 28 日～5 月 15 日「下呂市博物館資料展 2011」市主催
 - ②平成 23 年 5 月 28 日～6 月 26 日「人の命を考える 佐々木承定×アトリエ展」共催
 - ③平成 23 年 7 月 9 日～9 月 4 日「寄贈品から見た戦時下の日本と下呂」市主催
 - ④平成 23 年 11 月 3 日～12 月 28 日「市民・生徒による地域調査活動展」共催
 - ⑤平成 24 年 3 月 1 日～3 月 31 日「中田満雄デッサン画展」市主催

イ. 体験事業

- ・平成 23 年度から、展示品を「ただ見る」だけでなく、作ること（体験）を通じて「より深く理解する」きっかけづくりとして、体験学習「縄文体験」をスタートさせた。コースは、①古代アクセサリ作り（250 円）、②縄文土製品作り（300 円）、③ミニチュア縄文土器作り（500 円）の 3 コースを設定した。設定価格は材料費実費程度である。春休み・大型連休期間・夏休みは、家族連れや女性グループで大変賑わった。
- ・体験数実績
 - ①古代アクセサリ作り 9 0 1 人
 - ②縄文土製品作り 2 6 6 人
 - ③ミニチュア縄文土器作り 1 2 1 人

ウ. 普及事業

- ・ここでは、館内の展示について、特別な申請により団体向けの展示解説を行った実績を示す。（新聞各種、ケーブルテレビの取材は除く）

日付曜日	団体名	目的	人数
23.7.1(金)	東海じゃらん	取材「縄文体験」	2 名

23.7.12（火）	中部経済連合会	取材「細江静男」	1名
23.7.16（土）	神奈川県茅ヶ崎市団体	展示品及び峰一合遺跡見学	45名
23.7.17（日）	日仏親善事業フランス学生 （日仏協会）	展示品及び峰一合遺跡見学、体験学習	9名
23.9.8（木）	一橋大学歴史ゼミ研修	市内戦国時代の城跡見学、出土品閲覧	16名
23.10.7(土)	上原小学校	峰一合遺跡公園内散策	12名
23.10.19(水)	下呂小学校	展示品及び峰一合遺跡見学	60名
23.11.11(金)	下原小学校1年生・2年生	展示品及び峰一合遺跡見学	40名
23.11.11(金)	中原小学校6年生	総合学習（細江静男）取材	10名
23.11.25(金)	尾崎小学校5年生	展示品及び峰一合遺跡見学	23名

3）事業への評価（アンケート調査）

- ・平成23年度には、当館の事業評価の一環として、来館者アンケート調査を実施した。アンケートは、展示に関する評価5項目、体験学習に関する評価5項目を設定し、5段階で評価を受けた（資料1参照）。

4）博物館収蔵資料の収蔵環境改善事業

①収蔵資料台帳の作成

- ・萩原地域寄贈古文書（区有文書）の収蔵資料台帳の作成。
- ・峰一合遺跡出土遺物の再整理（洗浄・注記・収納環境の改善）

②寄贈品の受入

受入日	資料	点数	寄贈者名（敬称略）
23.12.24	太平洋戦争出征時に贈られた 日章旗	1点	個人（可児市） 個人（下呂市）

5）下呂ふるさと歴史記念館 入館者数の推移

- ・平成19年度以降、入館者数が下降していたが、平成23年度に上昇に転じた。館の事業内容の拡充とともに、市政だよりげろ（市内向け）、SARUBOBO（飛騨地方面向け）、観光課による広報（市外向け）、及び新聞・TVといった多様な広報チャンネルを駆使し、周知を図った結果と受け止めている。

年度（4月～3月）	入館者数	前年比（％）
平成19年度	15,593人	—
平成20年度	13,762人	88.2%
平成21年度	12,718人	92.4%
平成22年度	10,971人	86.3%
平成23年度	15,961人	145.5%

6）展示室の警備体制の改善

- ・平成16年4月に発生した小坂郷土館円空仏盗難事件を教訓に、借用展示品が存在する下呂ふるさと歴史記念館では展示室開閉部に異常発生通報システム等を設置するなど、設備の拡充を実施した。

◇市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】

① 生涯学習の推進

- ・公民館における生涯学習講座を充実し、市民のニーズに応じた指導者の確保と、市民の誰もが、いつでもどこでも学べる体制づくりを目指した。（講座数 91 講座募集、実施 71 講座）
- ・下呂市社会教育関係団体登録制度（使用料半額減免）により、公民館等を主な活動拠点とする団体の把握、及び団体への情報提供・団体同士の連携・仲間づくりを支援し、市民による公民館活動の充実を図った。（登録団体数 104 団体 前年度対比 40 団体増）
- ・平成 21 年 4 月 1 日に下呂市社会教育委員の会の諮問により「下呂市生涯学習のまちづくり人材バンク登録制度」を施行し、生涯学習に関する知識・経験・技能を有している人材を発掘。その情報の提供により、充実した市民の生涯学習を支援した。（登録件数：88 件、前年度対比 12 件増）
- ・平成 20 年 4 月に本稼動した図書館システムにより、市内五つの図書館（室）のネットワーク化、蔵書のデータ化など管理運営を向上させるとともに、市民にさらに親しまれる図書館づくりの充実を図った。
蔵書冊数： 83,451 冊（前年度 77,714 冊） ※電算登録分、雑誌・視聴覚資料は含まない
登録率： 16.36%（前年度 14.44%）
貸出点数： 88,143 点（前年 86,549 点） ※雑誌・視聴覚資料を含む
- ・住民生活に光をそそぐ交付金事業（国費）を利用し、図書館利用者の利便性の向上や、利用促進を図った。合わせて下呂ネットサービス（ケーブルテレビ）や広報誌を活用し、広報活動にも努めた。
 - 市内に 3 館ある図書館のうち、蔵書の配架及び閲覧スペースが狭小な下呂図書館について、下呂市民会館（公民館）ロビースペースの床、照明などを改修し、図書館スペースを拡張することで利用者の利便性や利用者数の向上に努めた。
 - 下呂市内の図書館（室）5 か所で、下呂ネットを利用した無料 Wi-Fi スポットを整備、ノート型パソコンを購入しインターネット閲覧などを体験できるようにした。
 - エンターテインメント作品や教育作品などの視聴覚資料（DVD）を充実させ、日頃図書館利用の少ない層へアピールし、図書館の利用促進を図った。
 - 老朽化した書架や閲覧テーブル、イスなどを購入し環境整備を行った。

② 人権教育の推進

- ・学校、行政諸機関、各種団体等との連携により、人権教育や人権啓発のために作成されたポスターの掲示や機関誌の購入、研修会の案内をした。また、生涯学習講座の中に人権に係る内容（障がい者との関わり講座・認知症理解講座）を取り入れ、啓発活動を推進した。

③ 市民の生涯学習の拠点となる施設の管理運営

- ・博物館、図書館等を除いて、社会教育課が所管する社会教育施設の利用状況は次のとおりである。
- ・市民の生涯学習の拠点施設となるべく、適切な管理運営を行った。
 - 下呂市民会館（下呂中央公民館） 延べ利用者数：26,044 人（前年対比 92.9%）
 - 金山市民会館（金山公民館） 延べ利用者数：13,977 人（前年対比 88.3%）
 - 星雲会館（萩原中央公民館） 延べ利用者数：45,626 人（前年対比 99.4%）
 - 上記以外の公民館（10 館） 延べ利用者数：41,400 人（前年対比 87.9%）
 - 小坂山村開発センター 延べ利用者数： 5,131 人（前年対比 101.5%）
 - いきいきセンター 延べ利用者数： 1,434 人（前年対比 85.4%）
 - 位山自然の家 開設期間 4～11 月／延べ利用者数：6,795 人（前年対比 127.8%）
 - 響会館 延べ利用者数： 1,815 人（前年対比 91.4%）

- ・市内3箇所のキャンプ場(山之口、中川原、乗政) 延べ利用者数:2,508人 (前年対比 22.0%)

・「地域活性化・きめ細やかな交付金」を活用して次の中規模な改修を行った。

- ① 星雲会館東面外壁塗装工事 4,830千円
- ② 星雲会館駐車場改修工事 7,319千円
- ③ 星雲会館換気扇設置工事 1,596千円
- ④ あさんず会館外壁塗装工事 7,308千円
- ⑤ 湯屋公民館外壁塗装工事 5,858千円
- ⑥ 上原公民館トイレ改修工事 11,718千円

◇だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】

(1) 地域スポーツ推進のための仕組みづくりと支援

①下呂市体育協会の機能を強化し、競技者の拡大を図る。

- ・事務局は教育委員会から総合型地域スポーツクラブ(NPO 法人萩原スポーツクラブ)へ移転
- ・構成員数 H23 3,837人(H22 3,801人)
- ・補助金9,675千円を交付した。(H22 7,512千円)

②地域での活動を基本としたスポーツ推進委員活動への転換を図る。

- ・委員の内訳 小坂地域5名、萩原地域5名、下呂地域8名、金山地域7名、馬瀬地域4名 計30名
- ・下呂市スポーツ推進委員会を3回開催した。



第1回スポーツ推進委員会(5月22日ペタンク研修)

- ・スポーツ推進委員による軽スポーツ普及活動



7月5日ペタンク講習(於:小坂小学校)

③全市的な認知と支持を得るための総合型地域スポーツクラブの取り組みを支援する。

下呂市には、スポーツクラブを中心として組織された「下呂市総合型地域スポーツクラブ連絡会」がある。スポーツクラブ及び自主運営を目指すスポーツ団体への支援及び相互交流を通じて、総合型地域スポーツクラブの理念を地域に広めることを目的に活動する全市組織で、平成 23 年度は「スポーツゲームズ in 下呂」、「下呂市スポーツ指導者講習会」などのイベント事業、また市内の総合型クラブ未整備地域へ新規設立に向けた協議検討を行った。平成 23 年に制定されたスポーツ基本法の中で、総合型地域スポーツクラブの育成支援は自治体の義務とあり、教育委員会としても総合型クラブ普及のため全市的に取り組んでいるこの組織への支援を今後強化していきたい。

④現場の要請にあったスポーツ指導者研修の実施

草野健次の自然体バレー塾 in 下呂Ⅳ（主催：NP0 法人萩原スポーツクラブ 2 月 25～26）を後援した。



(2) スポーツ情報の収集と発信に努め、スポーツ愛好者を増やす。

情報発信は未実施

(3) 安全安心に利用できる施設環境づくり

①使用料水準、減免基準の見直し

使用料水準は平成 22 年度に見直し済。減免基準については未実施。

②廃止施設の再生利用可能な設備を転用、有効利用を図る。

湯屋小学校閉校後のグラウンド、体育館を社会体育施設に転用するため条例を改正した。

③ぎふ清流国体に向けた施設環境の整備

- ・あさぎりスポーツ公園多目的グラウンド排水整備工事

事業費：3,077 千円

内 容：排水溝新設 L=72m、集水桝設置 2 基



- ・あさぎりスポーツ公園倉庫（旧弓道場）棚設置工事
事業費：483 千円
内 容：棚設置一式
- ・あさぎりスポーツ公園多目的グラウンド入口設置工事
事業費：326 千円

内 容：ネットフェンス門扉設置 2ヶ所

④御嶽パノラマグラウンドの有効活用

指定管理者による旧岐阜県御嶽少年自然の家との一体的管理運営を行うため、御嶽パノラマグラウンド条例を整備した。

■外部評価(下呂市社会教育委員の会、下呂市スポーツ推進審議会)

◇ 地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育む】について

- ・子育て支援、家庭教育支援、青少年育成等の人育ての分野の事業は大変難しい部分であると思いますが、過ぎず、熟すだけにならないよう、きめ細かで効果的な支援をお願いしたい。

◇ 市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】について

- ・ふるさと歴史記念館は、長年変わることなく暗く、魅力のない施設でしたが、職員の方々の努力で、目覚しく変化した。明るく、展示方法にも趣向を凝らし、積極的に集客努力をしていることを感じます。
- ・課題はあるが、今年初めて全市をあげての文化祭（展示の部）が行われたことは有意義でした。
- ・博物館利用に関しては、利用者拡大の目標に関して様々な施策が行われ、その結果として入場者が増えており、効果が数字に表れておりました。博物館や資料館という文化施設は、とにかくお堅いイメージがつきまとい、一般的に市民の関心が集りにくい所ではありますが、マスメディアを利用して、市民、観光客に情報を提供したり、資料の整理、ディスプレイの工夫等に努められる等、熱心に活動されている担当者の努力に感心いたしました。以前、私は会議の席にて、社会教育課の事業すべてに対して、目標や指標が明確でないと発言しましたが、この博物館については、他の事業や他の市町との比較が難しい所にて、前年度との比較が目標数字かと考えます。

◇ 市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学ぶ】について

- ・下呂図書館は、下呂温泉の中心街にありながら、狭く暗い感じで蔵書も古い物が多かったが、増床により、明るく親しみやすい図書館になった。財政が厳しいためハード面では十分なことも出来ないと思いますが、豊かな市民生活のため、ぜひ図書購入等の予算は確保して頂きたい。
- ・社会教育関係団体の登録、生涯学習人材バンクの登録が広がり、市民の方々にも認知されてきたので、更に団体相互の交流、人材バンクの活用がなされると良い。
- ・他市町との比較が可能な図書館利用については、苦勞している様子が伺われます。パソコンシステムの導入による図書館の一元化、下呂図書館の改築、金山図書館の新築とかなりの改善を行っているにも関わらず、図書館利用者の数字がもう一つ伸びていない理由がどこにあるのか、原因の追求とこれを伸ばすための施策を講じる必要があるかと思います。「市政だより」や「週間まめなかな」等のマスメディアの活用を増やしたり、学校、保育園、公民館、病院、介護施設といった所との連携をとるとか、家庭教育や子育て支援といった団体との関係を深めるといった方法もあるかと思います。

◇ だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】について

(下呂市スポーツ推進審議会)

- ・中部・北陸実業団駅伝大会が愛知県田原市での開催になったのは残念である。一流選手を見ることが出来る大会はぜひ残してほしかった。
- ・障がい者と健常者がいっしょにできるスポーツ（チェアスキーなど）が広がるといいと思う。縦割り行政の弊害もあり、みんなが障がい者スポーツに対する意識を変える必要がある。

- ・スポーツを楽しむ人の意見ばかりでなく、日頃スポーツに縁のない人の意見も聞き、スポーツの推進に反映させる必要があると思う。
- ・スポーツクラブが立ち上がっていない地域に対しては、教育委員会がもっと組織づくりに力を入れるべきだ。

（下呂市社会教育委員の会）

- ・スポーツ関連については、設備利用者数の数字が出されているのですが、これによって下呂市民のスポーツ活動が活発なのかどうか良くわかりません。施設の使用状況がものさしになる事はわかるのですが、使用状況を高めるためにどのような施策が講じられ、成果となって表れたかが残念ながら見えてきません。私自身、若い頃からいろいろなスポーツを行い、この10年間は子供のスポーツ活動を見守ってまいりましたが、行政のスポーツ支援の物足りなさを常感じてきました。総合型地域スポーツクラブの在り方の検討、育成と支援については、モデルとなるような進んでいる市町を参考にしながら、早急に進めるべきかと考えます。そういった中、スポーツや文化活動の拠点となる施設がアクティブかと考えますので、この有効活用についても社会教育の中にて検討すべきかと考えます。

(資料1 下呂ふるさと歴史記念館利用アンケート)

【常設展示】

居住域	アンケート数	点数細別	評価項目(5段階評価)				
			展示資料の量の適正さ	展示資料の充実度	説明文の量の適正さ	説明文の内容の充実度	歴史教育材料有効性
下呂市	4	総点数	18	18	17	17	18
		平均値	4.5	4.5	4.3	4.3	4.5
高山市	5	総点数	20	20	21	23	20
		平均値	4.0	4.0	4.2	4.6	4.0
岐阜県内	19	総点数	78	80	78	77	84
		平均値	4.1	4.2	4.1	4.1	4.4
愛知県内	8	総点数	27	28	29	30	29
		平均値	3.4	3.5	3.6	3.8	3.6
関東地方	5	総点数	18	20	18	18	18
		平均値	3.6	4.0	3.6	3.6	3.6
関西地方	3	総点数	14	14	14	14	14
		平均値	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7
その他地方	7	総点数	24	24	23	24	27
		平均値	3.4	3.4	3.3	3.4	3.9
全体	51	総点数	199	204	200	203	210
		平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.1

【体験学習】

居住域	アンケート数	点数細別	評価項目(5段階評価)				
			受付時間帯の適正さ	体験内容の充実度	体験時間の適正さ	体験担当員の解説	歴史に興味をもつ契機
下呂市	4	総点数	18	20	20	20	19
		平均値	4.5	5.0	5.0	5.0	4.8
高山市	5	総点数	25	25	25	25	25
		平均値	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
岐阜県内	22	総点数	105	109	103	107	101
		平均値	4.8	5.0	4.7	4.9	4.6
愛知県内	8	総点数	29	34	34	36	32
		平均値	3.6	4.3	4.3	4.5	4.0
関東地方	6	総点数	25	30	30	30	29
		平均値	4.2	5.0	5.0	5.0	4.8
関西地方	4	総点数	20	20	20	20	20
		平均値	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
その他	7	総点数	25	34	31	35	32
		平均値	3.6	4.9	4.4	5.0	4.6
全体	56	総点数	247	272	263	273	258
		平均値	4.4	4.9	4.7	4.9	4.6

【定量的評価への担当者見解】

常設展示 現在、常設展示改装完了が原始時代～古代までに限られ、残り2室は従来の偉人展示になっている。特に、愛知県内・関東地方・その他地方在住者の評価が3点台と低く、地元の方以外にはわかりにくい偉人展示が評価の低さに影響していると考えられる。リニューアルにて改善を行った。

体験学習 平成23年度から開始した体験学習「縄文体験」は、多くの評価項目で高い評価を頂いている。また、在住エリア別の差異も少なく、幅広い方々に受け入れられたことがわかる。体験学習なくしては博物館運営が成立しないことを改めて実感した。なお、受付時間帯に若干の3点台がある。土日祝日の際の満員による待機、職員の昼食

(資料 2 公民館等利用状況)

地域	施設名	H23 年度	H22 年度	H23/H22
		上段: 人数 下段: 件数		%
萩原	萩原中央公民館	45,626	45,883	99.4
		2,589	2,755	94.0
	あさんず会館	3,741	3,927	95.3
		221	262	84.4
	山之口公民館	2,293	1,516	151.3
		141	126	111.9
小坂	湯屋地区公民館	3,022	2,950	102.4
		184	154	119.5
	小坂山村開発センター	5,131	5,057	101.5
		530	512	103.5
下呂	下呂中央公民館	26,044	28,030	92.9
		883	1,924	45.9
	竹原公民館	9,707	9,477	102.4
		608	1,013	60.0
	上原公民館	4,329	4,532	95.5
		122	270	45.2
	中原公民館	4,497	5,146	87.4
		286	448	63.8
金山	金山中央公民館	13,977	15,835	88.3
		785	823	95.4
	下原公民館	7,286	7,451	97.8
		371	355	104.5
	菅田公民館	3,340	4,607	72.5
		210	232	90.5
	東公民館	1,101	1,858	59.3
		88	137	64.2
	いきいきセンター	1,434	1,680	85.4
		150	183	82.0
馬瀬	馬瀬中央公民館	2,084	5,624	37.1
		169	402	42.0

平成 23 年度 教育委員会開催状況について

教育委員会会議については、原則として毎月定例会議を開催し、必要に応じ臨時会議を開催することとしています。平成 23 年度は、定例会議 12 回、臨時会議 1 回の計 13 回開催しました。また、学校訪問等を通じて教育現場の現状や課題点を常に把握し、市民の視点から教育行政に対する提言をしています。

※平成 23 年度 教育委員会審議案件 52 件

議案番号	件 名	提出日
1	平成 23 年度下呂市準要保護児童生徒の認定について	4 月 28 日
2	平成 23 年度下呂市育英資金給貸与申請に係る審査について	4 月 28 日
3	下呂市集団宿泊教育共同利用施設運営委員の委嘱について	4 月 28 日
4	「森水無八幡神社の石棒」文化財指定に係る審議会の答申について	4 月 28 日
5	平成 23 年度下呂市準要保護児童生徒の認定について	5 月 20 日
6	平成 23 年度下呂市育英資金給貸与申請に係る審査について	5 月 20 日
7	下呂市要保護及び準要保護児童生徒認定規則の一部を改正する規則について	6 月 25 日
8	下呂市教員住宅管理規則の一部を改正する規則について	6 月 25 日
9	下呂市準要保護児童生徒の認定について	6 月 25 日
10	下呂市立小学校で平成 24 年度において使用する教科用図書の採択について	7 月 22 日
11	下呂市立中学校で平成 24 年度において使用する教科用図書の採択について	7 月 22 日
12	平成 22 年度下呂市育英資金給貸与申請に係る審査について	8 月 26 日
13	平成 23 年度下呂市育英資金給貸与申請に係る審査について	8 月 26 日
14	平成 23 年度下呂市準要保護児童生徒の認定について	9 月 22 日
15	平成 23 年度下呂市準要保護児童生徒の認定について	10 月 28 日
16	下呂市スポーツ振興審議会に関する条例の一部を改正する条例に係る意見について	11 月 11 日
17	下呂市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例に係る意見について	11 月 11 日
18	下呂市立小中学校の設置に関する条例の一部を改正する条例に係る意見について	11 月 11 日
19	下呂市体育施設条例の一部を改正する条例に係る意見について	11 月 11 日
20	下呂市御嶽パノラマグラウンド条例の一部を改正する条例に係る意見について	11 月 11 日
21	下呂市体育指導委員に関する規則の一部を改正する規則について	11 月 11 日
22	平成 23 年度下呂市準要保護児童生徒の認定取消について	12 月 22 日
23	下呂市御嶽パノラマグラウンド条例施行規則の一部を改正する規則について	12 月 22 日
24	平成 23 年度下呂市準要保護児童生徒の認定について	1 月 27 日
25	平成 23 年度教育施設整備に係る工事計画の策定について	1 月 27 日
26	平成 23 年度教育財産の取得の申出について	1 月 27 日
27	下呂市御嶽パノラマグラウンドの指定管理者の指定について	2 月 24 日
28	下呂市体育施設条例の一部を改正する条例に係る意見について	2 月 24 日
29	下呂市立図書館条例の一部を改正する条例に係る意見について	2 月 24 日
30	下呂市立図書館管理規則の一部を改正する規則について	2 月 24 日
31	下呂市教員住宅管理規則の一部を改正する規則について	2 月 24 日

3 2	平成 24 年度下呂市小・中学校教育指導の方針と重点について	2 月 2 4 日
3 3	平成 24 年度下呂市教育委員会予算に対する意見について	2 月 2 4 日
3 4	平成 2 4 年度下呂市教職員人事異動について	3 月 7 日
3 5	下呂市教育委員長の選挙について	3 月 2 6 日
3 6	下呂市教育委員長職務代理者の指定について	3 月 2 6 日
3 7	平成 2 4 年度下呂市準要保護児童生徒の認定について	3 月 2 6 日
3 8	下呂市立小中学校学校医、学校歯科医および学校薬剤師の委嘱について	3 月 2 6 日
3 9	下呂市社会教育委員の委嘱について	3 月 2 6 日
4 0	下呂市公民館運営審議会委員の委嘱について	3 月 2 6 日
4 1	下呂市立図書館協議会委員の委嘱について	3 月 2 6 日
4 2	下呂市公民館館長及び公民館主事の任命について	3 月 2 6 日
4 3	下呂市青少年育成推進員の委嘱について	3 月 2 6 日
4 4	下呂市文化財審議会委員の委嘱について	3 月 2 6 日
4 5	下呂市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	3 月 2 6 日
4 6	下呂市スポーツ推進委員の委嘱について	3 月 2 6 日
4 7	下呂市集団宿泊教育共同利用施設運営委員の委嘱について	3 月 2 6 日
4 8	下呂市教育委員会事務局職員の任命について	3 月 2 6 日
4 9	「羽根のウメ」文化財指定に係る審議会の答申について	3 月 2 6 日
5 0	「羽根のサクラ」文化財指定に係る審議会の答申について	3 月 2 6 日
5 1	「羽根の小柿（マメガキ）」文化財指定に係る審議会の答申について	3 月 2 6 日
5 2	平成 24 年度下呂市社会教育の方針と重点について	3 月 2 6 日

※教育委員活動の一例

①学校訪問

訪問日	訪問先	訪問委員数
10 月 19 日	馬瀬小学校	3 名
	萩原北中学校	
	馬瀬中学校	
10 月 26 日	宮田小学校	3 名
	尾崎小学校	
10 月 27 日	金山小学校	3 名
	下原小学校	
	菅田小学校	
11 月 1 日	下呂小学校	3 名
	上原小学校	
	下呂中学校	
11 月 9 日	中原小学校	3 名
	東第一小学校	
	金山中学校	

訪問日	訪問先	訪問委員数
11 月 18 日	竹原小学校	3 名
	竹原中学校	
11 月 29 日	小坂小学校	3 名
	湯屋小学校	
	小坂中学校	
②研究会等		
10 月 21 日	調査研究委員会 (萩原小・萩原南中)	4 名
11 月 10 日	公表会 (萩原小・萩原南中)	3 名